

2018年度SGH講演会・意見交換会②

6月20日(水)は次の4つの講演会・意見交換会が行われました。

① 平和班：核兵器廃絶研究センター

長崎大学核兵器廃絶センターの鈴木達治郎センター長をお招きし、「核兵器廃絶に向けてー現状と課題ー」というテーマで、核兵器廃絶に関して現代世界のおかれた状況や、核燃料リサイクルの仕組みや現況についてお話いただきました。講演後の意見交換・質疑応答の時間には、生徒たちから活発に出される質問の一つ一つに、予定の時間を過ぎてしまった後も、具体的にお答えいただきました。生徒たちの探究心に火をつける、よい機会となりました。



② 水班：水産学部



長崎大学水産学部の山口敦子教授をお招きし、「長崎からグローバルな課題を発見する。特に長崎における水産業と海洋保全」というテーマで、水産業や海洋生物に関する知識をたくさん教えていただきました。生徒たちは、人間生活のための水環境と自然のための水環境の発展に関して折り合いが難しいという話に興味を持ったようでした。意見交換会では、疑問に思ったことを山口教授にたくさん質問をし、今後の研究について多くの貴重なアドバイスをいただきました。

③ 医療班：原爆後障害医療研究所

長崎大学原爆後医療研究所の高村昇先生をお招きし、「長崎からグローバルヘルスを考える～長崎からチェルノブイリ、福島へ～」というテーマでご講演を頂きました。国連やWHOなどによる国際的な保健活動の紹介から、原発事故後のチェルノブイリと福島での医療支援について、ご自身の経験をふまえてわかりやすく説明してくださいました。医療と健康をグローバルとローカルの二つの視点からとらえ、その相関性について考えさせる講演を通して、生徒たちは医療に関する多くの知識と発見を得ることができたようです。



④ 平和班：フィールドワーク学習会



長崎県立大学国際社会学部の小原篤次准教授と大学生13名をお招きし、フィールドワーク(FW)学習会を開催しました。小原准教授から、FWとは何か、どのような形態があるのか説明していただいた後、小グループに分かれて大学生の方に質問をするロールプレイに挑戦しました。生徒たちからは、「初対面の人と話すのはとても緊張したけど、早く慣れてインタビューできるようになりたい」「質問項目に『どちらかという』のような表現は避けた方がいいということがわかってとても参考になった」との感想が聞かれました。夏季休暇中に取り組むFWに向けて、貴重な学習をすることができました。